

とっとり Now

鳥取県総合情報誌 vol.121

2019
Spring

巻頭特集

ビジネスセンス光る 豪商の軌跡

倉吉と大阪をつなぐ淀屋ストーリー

特集

音楽通じ地域との懸け橋に

警察音楽隊&消防音楽隊の活動



命がけで海水を飲み、
ミネラル補給

写真提供＝NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部会員
吉田亮
全長約33cm。全身が明るいオリーブ色で、オスは胸にかけて黄色みが強く、翼は一部が赤茶色。「アーオーオーアー」と特徴のある声で鳴く。通常は山地で木の実や草の種を主食しているが、ミネラル分の補給のために磯で海水を飲む。荒波にさらわれることもあるので命がけだ。



あーとの森	革工芸 本池 秀夫	2
卷頭特集	ビジネスセンス光る豪商の軌跡	4
生きものセンター365 K原さんちの里山Diary	雅な雰囲気漂うヤマザクラ	16
ここにこの人 Human Life	ロケットくれよん あそびうたデュオ	17
きらり匠人 継承の技が語る世界	広告美術技能士 伊藤 達朗	20
特集	音楽通じ地域との懸け橋に	22
花咲くYokai談 水木しげると身近な妖怪たち	座敷わらし	28
鳥取のうま味	毎日食べたくなる王道洋食	29
Viva!とっとりLIFE 輝くIJUターン者たち	みそ製造業、地域おこし協力隊(若桜町)	30
企業紹介	株式会社 伯耆のきのこ	32
文字の迷宮をゆく～つれづれ書林女子～『ボタニカル・ライフ－植物生活－』 Voice		33
読者プレゼント・編集後記		34

●表紙イラスト ● ASAKURA KOUHEI (朝倉 弘平)

絵かき。1983年宮城県仙台市生まれ。自然との交感をテーマにした水彩画を描く。半年間の世界家族旅から無事帰国。エクアドルのガラパゴス諸島では、野生のアシカと海中で戯れ、最後には甘噛みのプレゼント。夢のような体験でした。



とっとり Now

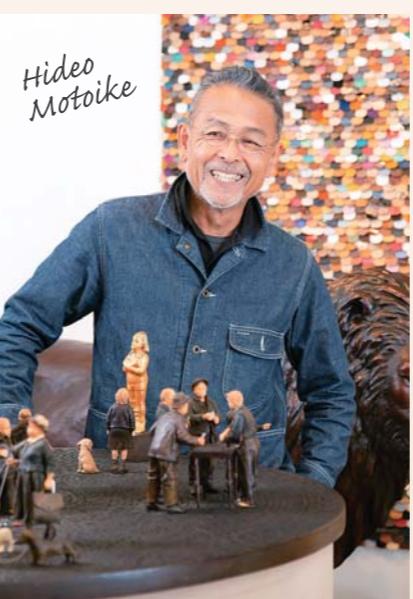
鳥取県総合情報誌 vol.121

2019 Spring

文／角秋勝治
写真／堀田豊
あーとの森
Forest of Art



もといけ・ひでお
1951年、米子市生まれ。71年、日本大学在学中に「アトリエMOTO'S」を主宰。73年に渡欧、ローマの古陶磁器人形に触発され、独学で革人形制作に着手する。75年、ノーマン・ロックウェル展(渋谷パルコ)に協賛出品。76年、西武百貨店で初個展。鳥取県指定無形文化財保持者。



とある広場に集まる人々を描いた人形たちの一部分。その表情は細やかに表現されておりリアルだ

細部に宿るリアリティー

革工芸 本池秀夫

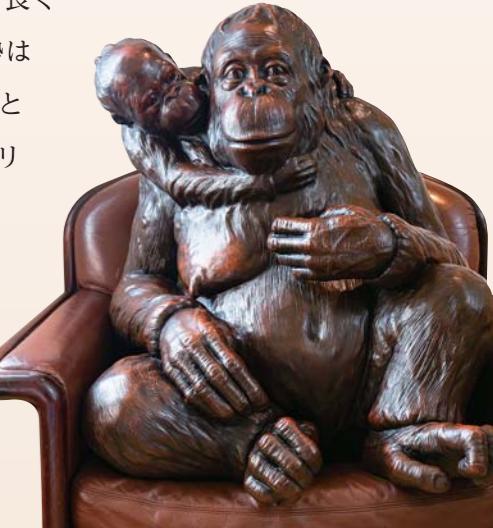
アトリエに入り、思わず「わっ」と感嘆の声を上げた。革独特の滑らかな触覚がもたらす人形たちの実在感と、等身大のライオン、ヒョウ、オランウータンなどの動物が醸す存在感。この圧倒的なリアリティーは、一体どこから来るのだろうか。

幼少から「革に触れると、気持ちが落ち着いた」と語る本池秀夫さん。大学の体育学科で学ぶが、ローマで古陶磁器の人形に出会い「これを好きな革で表現したい」と決意。1975年、東京都内で開かれたノーマン・ロックウェル(※)展に協賛出品し、一躍脚光を浴びた。

人形の魅力は群像劇にある。広場の大道芸人を囲む観衆や、辻音楽師に聴き入る市民の姿は多彩。中にはスリもいて、仕組まれたドラマは濃密だ。一方、動物の迫力は、見えない革の下が支えている。大学で得た骨格や血管の知識が、思いがけず生かされているのだ。

「廃棄物になる皮を、再び生かす革が好き」と本池さん。動物愛護と大上段に構えるのではなく、「ともにある命の不思議さを大切に、もう少し長く一緒にいようよ」と語る姿勢は自然体。「神は細部に宿る」とか。革に秘められた、細部のリアリティーは奥深い。

※ノーマン・ロックウェル(1894-1978)－アメリカの市民生活を描いて、国民的人気を得た画家、イラストレーター。

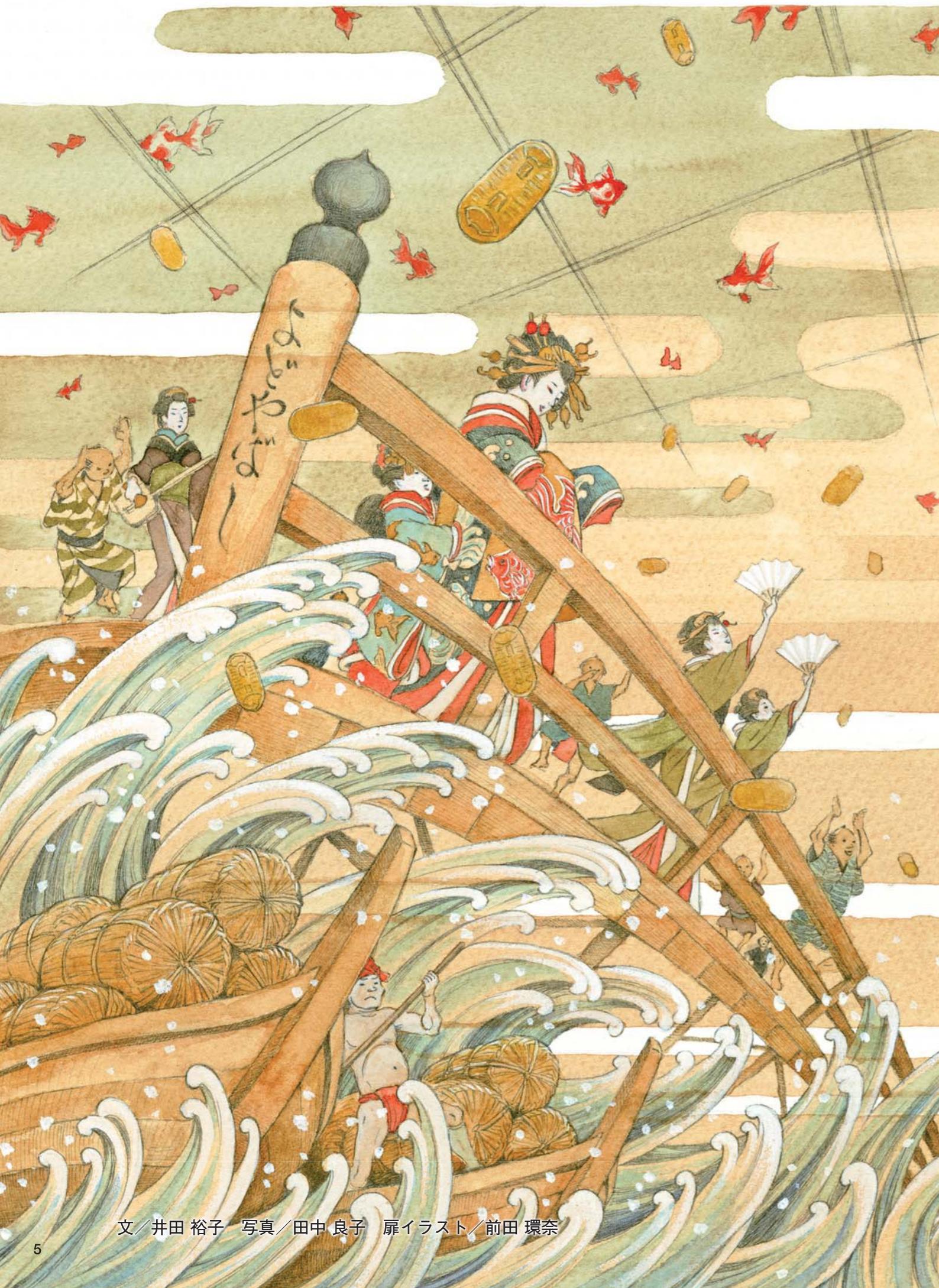


ビジネスセンス光る

倉吉と大阪をつなぐ
淀屋ストーリー

豪商の軌跡

江戸時代、建設・物流・金融などにおいて天才的な才覚を發揮した豪商・淀屋。その商いの方法は世界的にも注目されていた。そして、実は遠く離れた倉吉とも深い縁が。何世代にもわたる壮大なストーリーは今もなお、人々を惹き付けてやまない。ドラマチックな淀屋伝説の謎に迫る。



優れた才覚で大豪商に 「天下の台所」の基盤を築く



大阪淀屋の歴代当主

初代 常安 1560-1622年

伏見周辺(京都)、船場(大阪)で活躍し、豊臣秀吉、徳川家康にその才能を評価される。その企画力、想像力、洞察力、先見性に基づいた意思決定と実行力には、目を見張るものがあり、戦後の大阪を復興した。

2代 言当 1576-1643年

幼少から父・常安の背中を見て育ち、大阪を「天下の台所」と呼ばれる日本一の経済都市にした最大の功労者。また、文化人としても優れ、寛永文化を支えたひとりである。

3代 箇斎 1606-1648年

2代目言当に嫡男がいなかったため、弟・道雲の子である箇斎が継ぐ。しかし言当の没後、わずか5年で、その後を追った。

4代 重当 1634-1697年

15歳で4代当主を継ぐ。商才優れた戦略家。日本中の米を集めめた「淀屋米市」を発展させ、淀屋は未曾有の大長者となる。西国全ての大名に莫大な銀を貸すなど、百万石の大大名にも匹敵する力を持ったため、幕府が恐れるほどに。幕府からの取り潰しを予期した重当は、暖簾分けして倉吉に牧田淀屋を作った。

5代 広当 1683-1717年

父と同じく15歳で5代当主に。若年のため、家内をまとめ得ないままに、幕府に奢侈と従業員の監督責任を問われ、闕所となつた。八幡で隠居生活の後、江戸に行き7年過ごし、闕所10年で恩赦に浴した。

参考文献:淀屋図録『淀屋の歴史と偉業』
(淀屋研究会編集)

大阪市を流れる土佐堀川に架かる淀屋橋。現在の橋は、1935年に架け替えたものだが、名前は最初に架橋した淀屋にちなんだもの。国の重要文化財。写真提供:淀屋研究会



淀屋橋南詰西側にある淀屋の碑。淀屋の功績が記されている。写真提供:淀屋研究会

倍という広大な屋敷の中には、天井一面をガラス張りの巨大な水槽に仕立てたあげく、当時はまだ贅沢品だった金魚を泳がせていた座敷もあつたというから、驚くばかり。多くの大名たちにも資金を用立て、西国33力国で淀屋に借金のない大名はないと言われていたほどだった。

しかし、日本一と謳われたその財力は、一夜にして泡と消え失せる。1705年、「町人の身分を超えて贅沢が過ぎる」という理由で、淀屋は幕府から闕所(全財産を没収の上、所払い)の処分を受けたのだ。

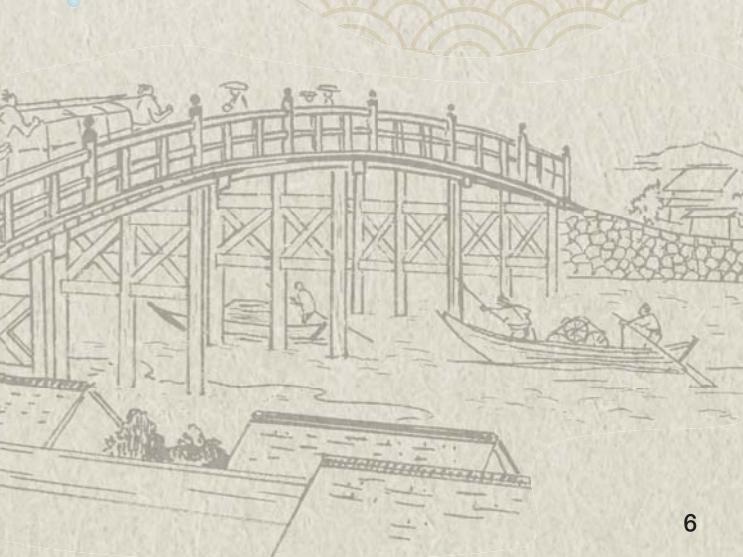
安土桃山時代の末期。初代・岡本常安は、豊臣秀吉の伏見城築城(1594年)工事に参入して名を上げ、さらに洪水が多く、‘暴れ川’と呼ばれていた淀川の築堤工事を成し遂げて、後に大阪で商家「淀屋」の暖簾を上げる。

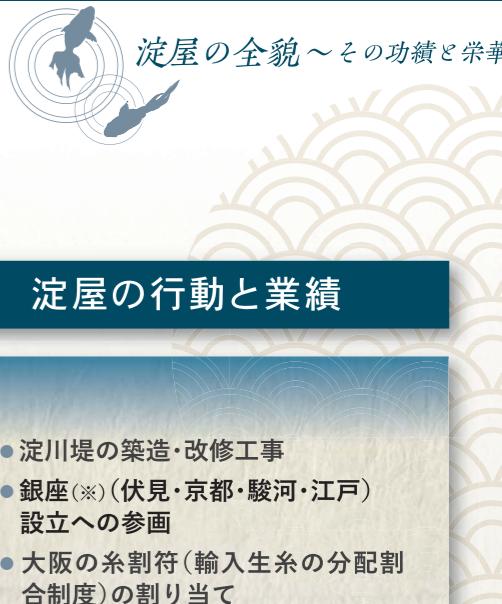
やがて、大阪の陣(1614)が起ると徳川家康方に付き、得意の土木技術で家康の勝利に貢献する。その功績が家康に認められた常安は、山城八幡に山林300石の御朱印を賜り、大阪に入る千魚の運上金を得る権利を許さ

江戸時代初めには大阪・中之島を開拓し、近世大阪のインフラ整備を進め、大阪が「天下の台所」として発展する基盤を築く。豪商となつた淀屋の暖簾は、常安から言当、箇斎、重当、廣当へと継承される。2代目の言当から以降、淀屋の主は「淀屋辰五郎」と呼ばれた。

豪商ぶりは4代目・重当の頃にピークを迎える。東京ドームの約2.5倍といふ大きさの暖簾を、重当、廣当へと継承される。2代目の言当から以降、淀屋の主は「淀屋辰五郎」と呼ばれた。

商人として、大いに腕を振るうようになる。





淀屋の行動と業績

- 淀川堤の築造・改修工事
 - 銀座(※)(伏見・京都・駿河・江戸)
設立への参画
 - 大阪の糸割符(輸入生糸の分配割合制度)の割り当て
 - 青物市の再開と海産物市場の設立・運営
 - 中之島の開拓(物流システムの構築)
 - 北前船→北方交易の先鞭
 - 米市場設立と運営
 - 淀屋橋の架橋
 - 行政への参画と地域貢献
 - 文化人としての支援と貢献
 - 神社仏閣への膨大な寄進
 - 西国大名への莫大な融資

【資料提供－淀屋研究会】



淀屋研究会

倉吉市大阪事務所長(当時)の故伊藤博章さんと、倉吉市の作家・故新山通江さんらが中心となり2005年5月、開所300年を記念した「淀屋サミット」を鳥取県大阪事務所(当時)で開催。これをきっかけに有志たちが「淀屋研究会」を設立。初代代表は伊藤さん。

所 大阪市北区梅田1-1-3-2200
大阪駅前第3ビル22階(倉吉市関西事務所内)
WB <http://www.ric-hi-ho.jp/yodoya-ken>

「表向きは幕府が目に余る贅沢を
りをとがめたということになつてい
るが、実際は淀屋の勢力を恐れて、
諸大名の借金を棒引きにするために
行つたのでしょうか」

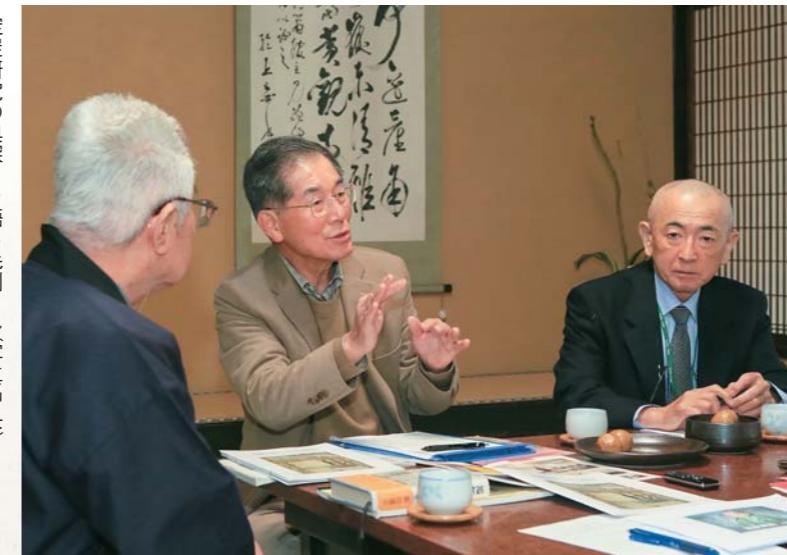
そう話すのは、2005年から淀
屋の顕彰と、新事実の掘り起こしを
行っている団体「淀屋研究会」代表
の毛利信一さん。闕所の際に、淀屋
に関する文書や手紙などの史料も失
われたが、同会の各種資料の収集活
動により、淀屋の系図や代々当主の
文化的側面などが次々、分かって
きている。もともと歴史好きだった
毛利さんが淀屋研究会に入つたの
は、勤め先のあつた大阪府守口市（もりぐち）の

佐太夫神宮で、石井筒（井戸の地上の部分を石で円形に囲った井戸）の寄進者として淀屋の名前を発見したのがきっかけだった。「どんな関係があるのだろう」と淀屋に関心を持つていたところ、鳥取県大阪事務所（現鳥取県関西本部）で「淀屋サミット」（倉吉市大阪事務所（現倉吉市関西事務所）主催）が開かれると知つて参加したことにより、淀屋の謎に引き込まれていった。

一方、旧溝口町（現伯耆町）出身の代表代行・大江昭夫さんは長らく証券業界に携わり、自ら相場の中に身を置きながらその歴史を探っていくうちに、世界で最初に先物取引シ

「残っている記録が少ないので、別
の豪商や諸藩の記録から手掛かりを
見つけては、ああではなかろうか、
こうだつたのではなかろうかと、ス
トーリーを推察できるのが、淀屋研
究の最大の魅力です」と語る。

現在の会員は約60人で、関西をメ
インに全国に会員がいるという。活
動は関西だけに留まらず、闕所から
58年後に大阪・北浜地区に再び「淀
屋」の暖簾を復活させるまでの礎を
築いた、倉吉の地へもその熱い視線
は注がれる。



卷之三

時空を超えるDNA受け継ぐ

初代淀屋・常安は、地方豪族の武士の生まれだったが、織田信長に追われ、九死に一生を得た末、商人として成功を収めていく。その類い希なる才能は時の権力者、豊臣秀吉・徳川家康をも唸らせた。

大阪の陣（1614～1615年）の後、淀川の中州であつた中之島を自己資金で開拓し家康に献上、ここに架かる橋のひとつとして「常安橋」の名が今も残る。中之島は、その後、西国大名を中心に各藩の蔵屋敷が立ち並び、急速に栄えていく。

その後常安は、幕藩体制の経済基盤の根幹である米に注力、自分の屋敷の庭先（現淀屋橋南詰）で各藩の米の売りさばきを始めた。これが「淀屋米市」の始まりだ。2代目言当の時代には、千石船（せんごくぶね）による物流システムを構築、加賀百万石の廻米（かいまい）（売却米）を一手に引き受けるなど、莫大な量の米をさばくように。そして各藩の蔵屋敷にある米俵を動かす事なく「米切手」という証券を発行し、これを売買する事により次第に金融市場として変貌を遂げて行く。

この手法により大阪の米取り扱いは飛躍的に増大し、「淀屋米市」は、市場を独占する。その後、藩財政がひっ迫するようになると、未着の米に加えて次年に収穫が予想される米にも米切手が発行され、加えて、現物決済なしの米切手売買のみによる「差金決済」に走る仲買人も出て来るよう。これが「帳合米取引」と呼ばれ、現代に於ける「先物取引」の原点と言われている。

ところが淀屋は1705年、闕所処分を受け消滅、米市場も閉鎖となる。しかし、米市場の必要性を認識した徳川8代目将軍・吉宗が1730年、「堂島米会所」を復活させ、その後、幕末まで日本の米市場を席巻、世界に先駆けた先物市場として発展を遂げていったのだ。



—堂島米会所を支えた金融の仕組み—

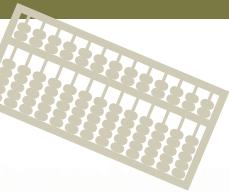
名代 大阪で屋敷を持つ事を禁じられた大名が自己の蔵屋敷の名義人として指名した町人(名義人)

蔵元 蔵屋敷内の物品(米が主体)の管理・出納をする人(営業・管理担当)

掛戸 蔵物代金の受領・保管・送金を担当する人(財務担当)



堂島米市の図(浪花名所図会) 画:歌川広重=大阪府立中之島図書館



主に託された番頭の仁右衛門 倉吉で商い、大阪で再興果たす

浄土宗の寺院、大蓮寺。打吹山に向かって建つ立派な山門をくぐると、すぐ左手に「大阪淀屋清兵衛」と刻まれた供養塔がある。その供養塔と大阪の豪商・淀屋とのつながりは、ほとんど知られていなかったが、1979年に地元の有志の招きで倉吉を訪れた淀屋研究家が墓や寺の古文書を調査し、「大阪と倉吉の淀屋清兵衛は同一人物」と結論づけた。

「石工を大阪から連れて来て、石材もわざわざ別の土地から運び込まれて建立されたものといわれています」。牧田家の菩提寺である大蓮寺の29代住職、福嶋慶純さんが説明してくれた。その奥には、牧田家代々の墓も並ぶ。

淀屋と倉吉のつながりの始まりは、淀屋が闕所になる35年前、

1670年まで遡る。四代目重当は、

倉吉が故郷である番頭の牧田仁右衛門に、「倉吉で密かに商いを続けて

欲しい」と命じる。経済的な力を付

けた商人を恐れる幕府が、その筆頭

である淀屋を見せしめとして、近いうちに取りつぶすであろうと見越し

ての計略だった。仁右衛門は、主の

淀屋として商いを始めた。

残る史料が少ないため、倉吉での商いの詳細は不明な部分もあるが、木綿を扱っていたことは、当時の荷

出しの記録から明らかになつてい

る。大阪の淀屋が米問屋だったこと

から、倉吉でも米を取り引いていたと考えられ、淀屋から託された資金を基に「金融も扱っていたのでは」と推察する研究者も多い。

また、これまで倉吉の牧田淀屋と

いえば「鉄製の『稻扱千刃』を開発し、全国に普及させた」とされてきた。

しかし、現在では牧田淀屋が直接に稻扱千刃を販売していたのではなく、「親戚関係にあつた鉄問屋の大

鐵屋や、廻船問屋の天野屋などとの関わりの中で、鉄の調達や資金援助などを通じて、稻扱千刃の商いのサ

ポート役だったのでは」という説が有力になっている。

このほか、牧田淀屋が最盛期を迎えるころに淀屋に嫁いだ女性が、実

家の天野屋へ宛てた手紙が最近になつて発見され、両家が密接な関係にあつたことがうかがえる。



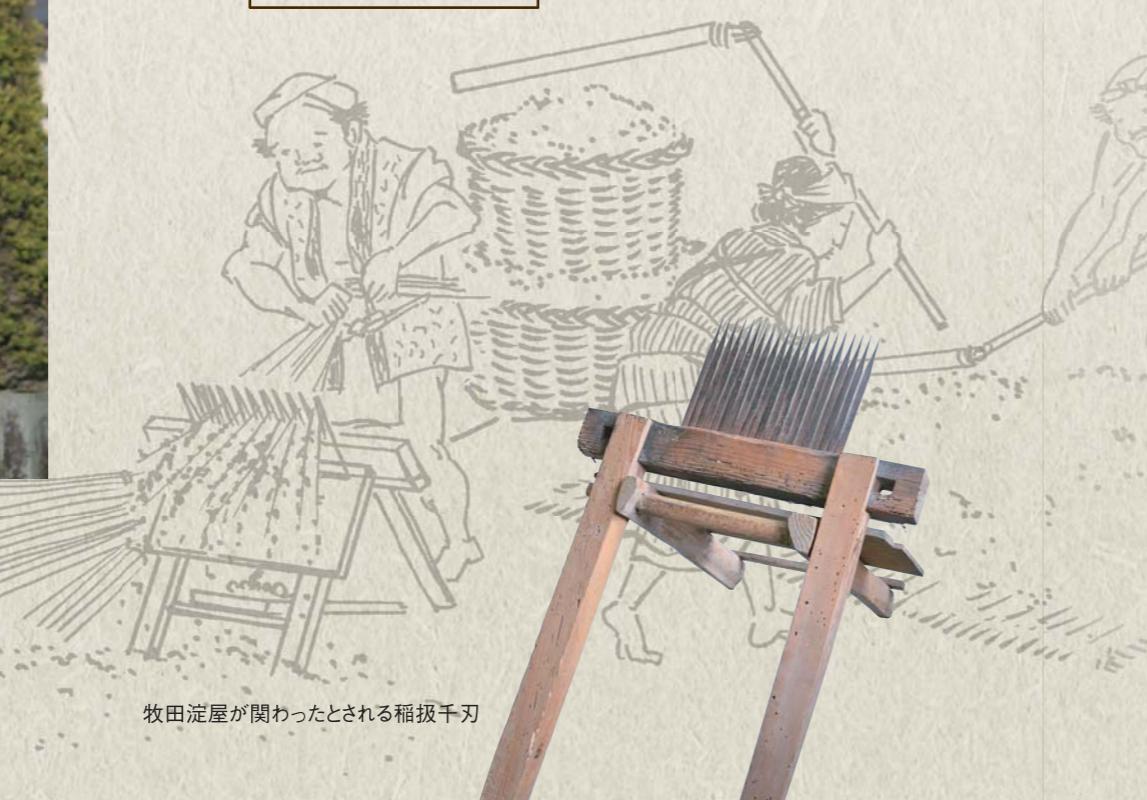
大蓮寺

所倉吉市新町1丁目2411
☎ 0858-22-3393

大阪淀屋との縁が判明するきっかけとなった淀屋清兵衛の墓。大蓮寺には今も牧田家代々の人々が眠る墓がある



「解明されていないことが多い、諸説あるのが淀屋の興味深いところ」と語る福嶋さん



牧田淀屋が関わったとされる稻扱千刃



歴史の重みを感じさせる大蓮寺の山門

屋内に入ったとたん、目を見張る太い柱や梁に圧倒される



倉吉市内にある旧牧田家住宅。2018年4月に全ての修復を終え、当時の趣がある造りが見学できる

旧牧田家住宅
所 倉吉市東岩倉町2280
☎ 0858-23-0165
営 9時～17時 料 無料



牧田家の商いの様子を知れる場所が、今も倉吉にある。倉吉市指定文化財「旧牧田家住宅」だ。倉吉では最も古い町家建築で、1760年に建築された主屋と、1838年に増築された離れ座敷が残っている。柱や梁などに太く立派な材が使われ、素朴ながら豪壮な造りの主屋には帳場を再現。2018年4月に修復を終えた離れ座敷は、透かし彫りの板欄間や釘隠しの金具、違い棚などの数寄屋造りで細部に意匠を凝らし、風流な倉吉商人の生活がうかがえる。

倉吉で確実に商いを大きくした牧田家は、闕所から58年後、牧田家三代・五郎右衛門の息子（四男）が大阪に出て淀屋清兵衛を名乗り、「淀屋」の再興を果たす。以後、牧田淀屋と大阪淀屋の両家で協力して栄えていった。

牧田家の商いの様子を知れる場所が、今も倉吉にある。倉吉市指定文化財「旧牧田家住宅」だ。倉吉では最も古い町家建築で、1760年に建築された主屋と、1838年に増築された離れ座敷が残っている。柱や梁などに太く立派な材が使われ、素朴ながら豪壮な造りの主屋には帳場を再現。2018年4月に修復を終えた離れ座敷は、透かし彫りの板欄間や釘隠しの金具、違い棚などの数寄屋造りで細部に意匠を凝らし、風流な倉吉商人の生活がうかがえる。

倉吉で確実に商いを大きくした牧田家は、闕所から58年後、牧田家三代・五郎右衛門の息子（四男）が大阪に出て淀屋清兵衛を名乗り、「淀屋」の再興を果たす。以後、牧田淀屋と大阪淀屋の両家で協力して栄えていった。



柱と長押が交差する部分をとめる釘をかくす釘隠し

旧牧田家住宅を管理する「倉吉淀屋運営委員会」会長の大澤俊一さん

は「淀屋の歴史はいくら調べても興味が尽きません」と、毛利さんや大江さんと淀屋談義に花を咲かせる。旧牧田家住宅で案内人を務める仲

田康子さんは「関西から来られる観光客の皆さんは『淀屋』という名前に敏感で、『大阪の淀屋と倉吉に関係があるとは知らなかつた』とよく驚かれます。その一方、淀屋との関わりを知る人も多く、何度も足を運んでくださる方もいらっしゃいます」と穏やかに話す。

田康子さんは「関西から来られる観光客の皆さんは『淀屋』という名前に敏感で、『大阪の淀屋と倉吉に関係があるとは知らなかつた』とよく驚かれます。その一方、淀屋との関わりを知る人も多く、何度も足を運んでくださる方もいらっしゃいます」と穏やかに話す。

再現された帳付けや勘定などをする帳場

情感豊かに 主従のやりとり再現



よどみのない口調と臨場感あふれる講談に、観客は引き込まれ、感情移入する場面が多々

倉吉市を代表する観光地・白壁土蔵群から少し歩くと、静かな通りに面して国登録有形文化財「豊田家住宅」がある。切妻造、桟瓦葺、平入など、倉吉の伝統的な町家形式を保持するこの家で聞けるのが、講談「淀屋の光と影」だ。

講談を披露するのは、「倉吉談語の会」世話人の脇坂幸司さん(講談師:松風軒倉山)。倉吉談語の会は、倉吉市と旧関金町が合併した翌年の2006年に、関金に縁のある里見安房守忠義の物語を講談で語り継ごうと発足した。

その年に倉吉市で開催された「淀屋サミット」でも講談を披露してほしいという声を受けて、淀屋の講談が誕生。現在は、主に「里見忠義」「淀屋」「光格天皇の母で倉吉出身の大江磐代君」の3話を伝えている。関西からの観光客も多いためか、淀屋の講談が一番人気だ。

太い梁がむき出しへなった広い2階の座敷に、バンバンと釈台をたたく張り扇の音が響く。「淀屋には

豊田家住宅

所 倉吉市西町2701

☎ 0858-23-0440

講談は毎日開催/10時～15時30分

木戸銭／500円(お茶、お菓子付き)

淀屋の話を語り継ぐ講談 ～倉吉談語の会～

3つの流れがございまして、1つ目は大阪、淀屋橋にその名を残す商売の神様、創家の淀屋。2つ目は倉吉に暖簾を掲げた牧田仁右衛門の淀屋。そして3つ目が大阪で復興を果たした新生淀屋です。よく通る太い声で数奇な運命をたどる淀屋の歴史が、分かりやすく語られていく。

「仁右衛門、すまぬ。許してください」

「何をおっしゃいます、旦さん。これがわしらの勤めや思っとります」

主人・重当と番頭・仁右衛門のやり取りが情感たっぷりに再現され、思わずこちらも涙ぐむ。史実の間を埋めるストーリーにも触れられており、淀屋再興の軌跡がより身近に感じられた。

「光あるところに影がある。重当が光ならば、仁右衛門が影であります。倉吉と大阪にかけた大きな橋、淀屋橋…」

固い絆で結ばれていたであろう主従の物語は、これからも連綿と語り継がれていく。

ところが1859年、淀屋は、またも世間を騒がせる。全財産を朝廷に献上し、倉吉と大阪の両家を突如閉鎖したのだ。とはいえ、その莫大な財産の行方は、最大のミステリーとされている。淀屋研究会などの調査により、近年、倒幕後の明治時代にも倉吉と大阪で淀屋が残っていた記録が見つかったからだ。そこから朝廷に献上したことは疑わしく、明治維新後も商いを続けていたのでは」という見方が強まってきている。いずれにしても、一世紀近く歳月を経て、何世代にもわたって遂げられた商家再興の壮大な物語には変わ

りはない。
大澤さんは「倉吉に高い志を持つて生き抜いた人たちがいると知つて、現代の倉吉市民も改めて気を奮い立たせてほしい」と願いを込める。毛利さんも「淀屋の偉業を顕彰することは、私たちがこれから時代を切り拓くヒントになる。調査を続けてほしい」と話す。

先々を見据え、信じて望みを託すことは、こういうことか。その歴史が刻まれた場所で、見事な復活劇とそれを果たした人々に思いを巡らせ、背筋を正した。



大阪、倉吉の枠を超えて淀屋談義に花が咲く
(写真左から、毛利さん、大澤さん、大江さん)



光格天皇の母は倉吉出身

尊王の父と評価される第119代光格天皇(※)の母・大江磐代君は、実は倉吉出身。そして淀屋とも縁があった。牧田仁右衛門が倉吉で興した淀屋は、鉄問屋の大鉄屋と幾度か婚姻関係を結び、稻扱千刃の製造などを通じて関係を深めていたと考えられている。その大鉄屋の娘・りん(お竟)の産んだ娘が、後の大江磐代君・鶴(留子)だった。

鶴は9歳の時に京に上り、公家へ奉公。後に典仁親王(光格天皇の父)の目に留まり、光格天皇を産む。倉吉の商家から公家へとつながる過程は謎が多く、「倉吉淀屋運営委員会」会長の大澤さんは、「鶴様と宮廷のつながりをつくったのは、大阪で屈指の豪商だった淀屋が間を取り持ったからではないだろうか」と思いを馳せる。

ほかにも、「幕末に倒幕のために動こうとしていた脱藩志士を密かに援助していた『維新十傑』の一人、岩倉具視の資金源だったのではないか」などなど…淀屋に関する謎は未だ多く残っている。

※光格天皇=1771年-1840年。皇子がいなかつた後桃園天皇が急逝したため、同天皇の養子になり、9歳で皇位をついだ。父・典仁親王に太上天皇の尊号を贈ろうとして、老臣松平定信に拒まれた(尊号事件)。

ロケットくれよん



Rocket Crayon



文／鳥飼 明子 写真／山田 真実

クレヨンみたいに、
いろんな色の個性を持つ子どもたち。
その色を集めて、ロケットで宇宙まで飛んでゆき、
空をキャンバスにみんなの夢を描きたい。
そんな願いを込めて、全国各地で親子コンサートを
展開する「ロケットくれよん」。
彼らの真っ直ぐなメッセージは、子どもたちと
子育て中のパパ・ママに元気を与えていた。

里山の生きものにアンテナを張り巡らせ、
日々奔走する桐原夫妻の日常をエッセーと写真で紹介。

文／桐原 真希 写真／桐原 佳介・桐原 真希



広葉樹林の新緑の中で映える野生のヤマザクラ（南部町東上金山地区）

雅な雰囲気漂う ヤマザクラ

弥生3月、日本全国が浮き足立つ花見シーズンの到来もうすぐだ。各地を賑わす超有名なサクラは「ソメイヨシノ」だが、これは人が作り出した品種。対して元々日本の山林に自生する野生種が「ヤマザクラ」。古来、和歌にも詠まれたように、日本人が愛ってきたのは、このサクラなのだ。

早春、南部町の低い山肌をもえぎ色の新緑と共に彩る。開花時に淡い褐色の葉が一緒に展開し、至極贅沢な景観だ。寿命も長く、樹齢数百年の巨木もある。町内の山奥で幹回り3m超えの巨樹に出会ったとき、自らが散らした花弁で、太く黒い樹皮が桜色の水玉模様になっていた。

さて、サクラの名前にちなんだ日本酒は数々あり、開花の季節までにぜひ、手に入れたい。それらを味わいながら、ヤマザクラを眺め、うっとり春を感じてみたいなど妄想にふける。ただし、我が家には晩酌の習慣はなし。もっぱら料理酒での利用となり、残念ながら「雅」とは、ほど遠い…。

—K原さんちの里山Diary—



ソメイヨシノに何本か混じっている
ヤマザクラ（南部町法勝寺）



傾斜面に幹を伸ばした巨木に
落ちた花びらがはりついで水玉模様に



Profile

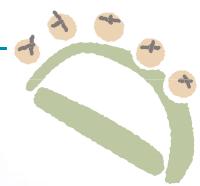
- ▼きりはら・まき=東京農業大学農学部卒業。1996年から自然観察指導員として活動。里山関係の体験事業を行う「もりまきフィールドネットワーク」代表。2児の母。
- ▼きりはら・けいすけ=東京農業大学農学部卒業。1999年に転職で神奈川県から米子市に転入、2003年に南部町へ移住。現在、米子水鳥公園主任指導員。野鳥をテーマとした環境教育活動や調査研究、湿地保全活動などに従事する。

きっかけは幼児の
ふとしたりつぶやき

まん丸な瞳をキラキラさせて、
ステージを見つめる幼児たち。「こ
んちはー！」。2人が登場し、
元気な歌とギターの音が響き始め
ると、楽しいあそびうたに合わせ
て子どもも大人もリズミカルに動
きだし、会場は見る見るうちに笑
顔でいっぱいに。まるで魔法のよ
う。それが彼ら「ロケットくれよ
ん」のコンサートだ。

ロケットくれよんは、元保育士
の男性2人組ユニット。ハットが
トレードマークで優しい歌声が魅
力的な山口たかしさんと、軽妙な
トークが楽しい、爽やかボイスの
高田さとさんだ。保育専門学校
の同級生として出会った彼らが、
幼稚向けのあそびうたを中心とし
た音楽活動を始めたのは、子ども
たちがふとした瞬間に「ぶやく言
葉」に強く惹かれたから。

「園児たちの何気ない一言が素
直でかわいくて。そんな気持ちを
みんなで共有できないかなと思っ
て、それぞれがギターで歌を作り



子どもの目線で曲づくり



「コンサートでの生の反応が励みですね」と高田さん

始めたのが最初（山口さん）。出
来上がった歌を受け持ちのクラス
で披露してみると、子どもたちは
大喜び。「あのとき○○ちゃんは
そんな気持ちだったんだね」「ボ
クはこうだったよ！」どんどん
広がってゆく共感に、「歌の力つ
てすごい」と感じた。

保育士との両立断念、 歌の道に専念へ

2人の歌は子どもたちへ広が
り、同僚や保護者へ広がり、次第
に「イベントでやってみないか」
と声をかけられるように。保育士

をしながら、土日は保育園・幼稚
園の親子会、地域の催し物などに
出かけていった。「歌が保育に生
かせていたし、保育の経験が音楽
にも生きていて、いいバランスが
取れていた」（高田さん）という。
どちらの活動も大切にしていた
が、音楽活動の割合が高くなっ
て、両立が困難に。何度も話し
合いを重ねた末、2人は保育士を
辞め、「自分たちの歌でたくさん
の人を笑顔にする道」を選んだ。
コンサート活動のかたわら、時
間が空いたときはギター片手に曲
作り。遊び方や振り付けも自分た
ちで考える。保育士の経験を生か
し、子どもが喜びそうなフレーズ
や、児童でも楽しめる簡単な動き
を盛り込むのがコツだ。演奏する
曲順や2人の掛け合いやダンスな
ども夢中になって考えた。

とはいえ、当初は音楽活動だけ
では食べていけず、アルバイト生
活も経験。周囲から「いつまでや
るの？」という声も聞かれた。で
も不思議と不安や焦りはなく、「何
をやっても楽しかった」と山口さ
ん。高田さんも「なんか根拠のな
い自信のようなものがあつたんで
すよね」と、笑いながら当時を振
り返る。

ちで考える。保育士の経験を生か
し、子どもが喜びそうなフレーズ
や、児童でも楽しめる簡単な動き
を盛り込むのがコツだ。演奏する
曲順や2人の掛け合いやダンスな
ども夢中になって考えた。

口ケットくれよん
(やまぐち・たかし たかた・さとし)
鳥取県出身・在住。それぞれ保育士として勤務した後、2004
年に「ロケットくれよん」を結成。オリジナルのあそびうたを作
詞・作曲、遊び方や振り付けも考案し、全国各地でファミリー
コンサート、保育者向け講習会などを実行。2018年度から保
育雑誌『ひろば』(メイト)で連載『ロケットくれよんのカラフル
歌遊び』がスタート。『おかあさんといっしょ』(NHKテレ)オリ
ジナルあそび歌『おもちびよ~ん!』の作詞・作曲・あそび考案
を高田さとしが担当。(曲は栗原正巳さんと共に作成)。



歌つて踊つてハッピーに



「いろいろな経験が曲づくりに生きています」と山口さん

◎コンサート情報◎

『じゃんけんジョイ! ~Hoick CDブック2』発売記念
スペシャルコンサートin鳥取・米子

日時: 2019年3月3日(日) 13時30分開演

会場: 米子市淀江文化センター(さなめホール)

料金: 大人(中学生以上)3000円(税込)(当日3500円)

子ども(3歳以上~中学生未満)1500円(税込)(当日2000円)

*3歳未満に限り、膝上無料、全席自由

出演者: 中川ひろたか、鈴木翼、ロケットくれよん、福田翔、gaagaaS

問 ☎ 090-8359-5299(米子にみんなを呼ぶ会・担当:春名)

☎ 046-738-6900(ソングブックカフェ・平日10時~18時)

年間120回以上公演、 全国を飛び回る日々

そんな2人に転機が訪れたのは、2009年のこと。オリジナルのあそびうたで競い合う「A.I.あそびうたグランプリ」に登場したのだ。優勝はできなかつたものの、全国から集まつた約100組の中から本選出場の8組に残つた。それをきっかけに、審査委員長を務めていたシンガーソングラ

イターの中川ひろたかさんに声をかけられ、中川さんと同じ事務所「ソングブックカフェ」に所属することになったのだ。

事務所に入つたことで、活動の幅はさらに広がつていった。CD制作による全国的な人気の高まりはもちろん、保育雑誌に取り上げられたり、楽曲提供をしたり。また、全国各地を巡るコンサート活動は、年間120回以上をこなすほどになつているというからすごい。

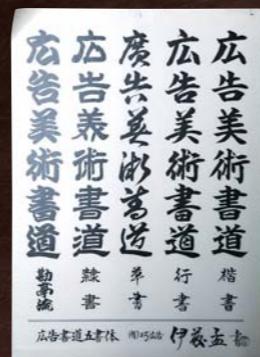
「ロケットくれよんの曲で毎日遊んでいます」「卒園式で歌いました」といった言葉が何よりの喜びであり、コンサートで出会う親子の笑顔がパワーの源。僕らの歌が家族の「いい時間」になつてくれたらうれしい」(山口さん、高田さん)。

この日のコンサート最後の曲は、メッシェージソング「なかま」。仲間と出会えた喜びと、大好きだよという気持ちが込められた歌だ。心あたたまるメロディーとシンプルな歌詞にのせた彼らの願いが、胸に響いた。

MEMO

2014年、鳥取県の「優れた技能者」(広告美術分野)に認定。周囲の景観や、自然環境との調和を図った看板設計・製作・取り付けでの熟練した技術が高く評価される。17年には、「厚生労働省の「ものづくりマイスター」(広告美術仕上げ分野)にも認定。鳥取県広告美術業協同組合に属する若手組合員の技能向上など、後進育成にも広く尽力する。

CMYK(シアン・マゼンタ・イエロー・ブラック)の4色をベースに刷り重ね、何千色ものさまざまな色が生まれる



先代が描いた美しい手描き書体の数々

大きな看板などの文字もあっという間に印刷できる大型プリンター



伊藤さんとその後を継ぐ息子の省吾さん(写真右)。ともに、企画展示やイベント会場設営など、立体空間の演出も手がける

昨日より、明日は巧く



継承の技が語る世界

日本独自の伝統を守り、技術を受け継ぐ
県内の「光る匠たち」を紹介します。

ビルや商業施設の看板サイン、のぼり旗や懸垂幕… etc. 見る人にインパクトを与え、街に賑わいを創出する屋外広告の世界は、手書きからデジタルへと変わり、多種多彩なデザイン表現が可能になった。鳥取市の伊藤達朗さん(60)は、手作業を知る最後の世代として、伝統と最先端、両方の技法を駆使しながら、新たな平面・立体空間の演出に挑戦し続けている。

広告美術技能士 伊藤 達朗

伊藤さんは、父親の孟さん(87)が1963年に創業した有限会社巧広告の2代目社長。先代の頃は、機械で印刷したかのように端正な手書き文字と絵で表現する看板製作が当たり前だった時代。達朗さんは、屋外広告設置に不可欠な建築知識を学ぶため、高校・大学とも建築科へ。卒業後は、岡山市内の同業者で4年間修業。この間に2級建築士資格を取得し、26歳で家業を継いだ。

当時は、まだ手書き広告が主流で自動車広告、大型トラックやバス、建築物、船体など、現地作業で腕を磨いた。しかしその後、屋外広告業界は、大きな変革期へ突入する。同社ではいち早く時代の波に乗り、コンピューターのほか、カッティングプロッター、大型プリンターを導入。手書きでは困難な表現や構成が可能になり、さまざまな広告主の要望に応えてきた。

「先代が時代の先を読み、転換期を乗り切ることができた」と伊藤さん。とはいえ、どんなに技術は進んでも、父から受け継いだ職人魂は忘れない。

「最後は人の仕上げ作業が肝。一つ一つの作業を丁寧に。昨日より、明日は巧くなりたい」

文／島 香子 写真／田中 良子

問 有限会社巧広告
所 鳥取市富安1丁目145
☎ 0857-24-4085

音楽を通じ地域との懸け橋に



Jポップ、アニメ主題歌、クラシック、演歌…etc.
聞き覚えのある旋律と、迫力ある演奏に足を止める人々。
日常の多忙な業務と並行し、イベントや公演などで
親しみやすい音楽を届けながら、
治安や防災の維持・促進も啓発している。
地域との懸け橋を築く鳥取県警察音楽隊と
鳥取県東部広域行政管理組合消防局消防音楽隊の
活動に焦点を当てた。

文／倉恒 弘美 写真／山崎 登

警察音楽隊＆消防音楽隊の活動





鳥取県警広報県民課
松下千恵さん

「よかったです」のひと言がやりがいに

4年前に県警音楽隊で初の正式な女性音楽隊員に任命された松下さんは、クラリネットの担当だ。大学在学中にジャズサークルでサックスを吹いていたが、それまでクラリネットを吹いた経験はなく、最初は音も出なかったという。隊の練習日以外にも個人練習を日々重ねているが、年間数十曲演奏するため、譜面を追うだけでも大変のこと。

「入隊した時は不安でしたが、皆さん優しくて雰囲気も良くて。活動は忙しいですが、プロムナード・コンサートには毎月、楽しみに来てくださる方も多く、会場から『よかつた』」
※カラーガード=鼓笛隊や吹奏楽隊、マーチングバンドなどで、フラッグやサーベル（洋刀）などの手具を用い、視覚的表現を行うパート。

演奏の合間に啓発活動も

公演先の学校や、県警の職場
体験に来た学生と一緒に演奏
したりするなど、若い世代と
の交流も盛んだ。



公演は、県内の東中西部でローテーションして開催する「ふれあいコンサート」(年1回)のほか、警察のイベントや、出演依頼を受けて派遣されることもある。多いのは幼稚園や、小学校、中学校、高校



鳥取東高校書道部と初の競演。音楽とパフォーマンスが見事に融合した（2018年11月、鳥取空港）

定着したファンが毎回集い
盛況のプロムナード・コンサート(鳥取県庁講堂)



自慢はバラエティー豊かな楽曲

（85年鳥取県で開催）に向けた吹奏楽編成になり、今に至る。現在は、「プロムナード・コンサート」も含めて年間約50～60回の演奏活動を行つてゐる。

鳥取県警察音楽隊は県東部を中心
に県内全域で活動、広く県民に親
しまれている。その歴史は長く、
1980年に発足。当初は金管バン
ド編成だったが、「わかとり国体」
上集い、常に盛況だ。

バラードにうつとり、演歌は一緒に口ずさみ、アップテンポの曲は手拍子で盛り上げ。会場が一体となる温かさが特徴の「プロムナード・コンサート」は、毎月1回、鳥取県警察音楽隊が鳥取県庁講堂で開催して

たり、全国の警察音楽隊の合同研修会に参加したりして、トレーニングを積んでいる。

活動日は、練習日と出演日も合わせて、わずか月に6～8回程度。公演は毎回プログラムが異なるので、樽野さんに限らず、隊員たちは活動日以外の自主的な個人練習を欠かさないという。

所屬は人事異動による任命で、本人の希望もあるが、そうでない場合も多々。ピアノやバンド活動など、何かしらの楽器経験者が多いが、全く未経験の隊員もいるという。担当する楽器はその人の経験や、その時人數が足りていらない楽器などで決まる。

基本的に楽長が指揮者を務め、現在の指揮者は県警本部に勤務する樽野直樹さんだ。音楽隊には15年間所属し、当初からクラリネットを担当、指揮は今年で3年目となる。指揮は

しめるバラエティーに富んだ楽曲が
自慢だ。





両立に苦労しつつ、歴史つなぐ



「音楽隊の存在をもっと知ってもらいたいので、演奏する機会を増やしたい」と永原さん

未経験者も試行錯誤で奮闘

現在の音楽隊は20～30代の若手職員が中心だ。数年前に世代交代をして、全員が未経験、楽譜も読めないところからのスタートだったという。まず耳で聴いて覚えたり、「ドレミ」を書いたりしながら、それが試行錯誤で必死に取り組んできた。サックス担当の新秀樹さんは、「まさか消防の道に入つて、楽器を演奏することは思いもよませんでしたが、住民のみなさんの楽しそうな様子を見るとうれしい」と、戸惑いつつも笑顔を見せる。

演奏するのは、親しみやすい童謡やJ-POPが中心で、演奏後には火災予防の啓発も行う。各種イベントへの出演のほか、管内の幼稚園や保育園から依頼されて演奏することも多い。現在は年間8～10回の出演だが、今後は回数を増やしていく方針だ。

「駅前などに出向いて演奏する機会を増やしたい。新たにボーカルも入れたいので、参加してくださる市民の方も大歓迎です」と音楽隊長の永原隆さん。

イベントや街角で、赤いユニフォームと出会う日が待ち遠しい。



「指揮はなかなか難しいですが頑張ります」と川口さん



「全体の音合わせなど、少ない時間でどれだけできるかが課題です」。通常業務との両立の苦労を話すのは、

指揮者で副隊長の川口洋史さん。18歳で音楽隊に任命され、今年で25年目。長年フルートとピッコロを担当し、2018年4月から指揮者として音楽隊をまとめている。「音楽隊としては40年近い歴史があるものの、現メンバーではまだ5年ほど。私も強弱の表現など、指揮の難しさに苦労しています。まだまだレパートリーが少ないので、皆さんが出でざめるような曲目を少しずつ増やしていくたい」。



クラリネットやサックス、フルートの木管楽器、そして打楽器がバランスよく編成されている。

彼らは東部消防局管内にある12の消防署から、リズムや音程の審査を経て選抜されたメンバーだ。有志が集まって結成されたわけではなく、職務として任命される。練習は平均すると週に2回、平日の午前の2時間だが、全員が消防隊員なので24時間勤務明けに練習をすることも珍しくないという。そのほか自主練習もしなければ、追いつかない。

指揮の振りを真似したり、メロディーに合わせて飛び跳ねたりする子どもたち。曲は、アニメの主題歌。演奏するのは、鳥取県東部広域行政管理組合消防局音楽隊。鮮やかな赤のユニフォームが、秋晴れの空に良く映える。

地域住民の火災予防の啓発と、職員の士気の高揚と情操の育成をめざして1980年4月に結成され、現在、音楽隊員は36人。トランペットやトロンボーンなどの金管楽器と、

鳥取県東部広域行政管理組合 消防局音楽隊

デイーに合わせて飛び跳ねたりする子どもたち。曲は、アニメの主題歌。

秋の消防イベントでの毎年の光景だ。演奏るのは、鳥取県東部広域行政管理組合消防局音楽隊。鮮やかな赤のユニフォームが、秋晴れの空に良く映える。

指揮の振りを真似したり、メロディーに合わせて飛び跳ねたりする子どもたち。曲は、アニメの主題歌。

秋の消防イベントでの毎年の光景だ。演奏るのは、鳥取県東部広域行政管理組合消防局音楽隊。鮮やかな赤のユニフォームが、秋晴れの空に良く映える。

クラリネットやサックス、フルートの木管楽器、そして打楽器がバランスよく編成されている。

彼らは東部消防局管内にある12の消防署から、リズムや音程の審査を経て選抜されたメンバーだ。有志が集まって結成されたわけではなく、職務として任命される。練習は平均すると週に2回、平日の午前の2時間だが、全員が消防隊員なので24時間勤務明けに練習をすることも珍しくないという。そのほか自主練習もしなければ、追いつかない。

指揮の振りを真似したり、メロディーに合わせて飛び跳ねたりする子どもたち。曲は、アニメの主題歌。

秋の消防イベントでの毎年の光景だ。演奏るのは、鳥取県東部広域行政管理組合消防局音楽隊。鮮やかな赤のユニフォームが、秋晴れの空に良く映える。

クラリネットやサックス、フルートの木管楽器、そして打楽器がバランスよく編成されている。

彼らは東部消防局管内にある12の消防署から、リズムや音程の審査を経て選抜されたメンバーだ。有志が集まって結成されたわけではなく、職務として任命される。練習は平均すると週に2回、平日の午前の2時間だが、全員が消防隊員なので24時間勤務明けに練習をすることも珍しくないという。そのほか自主練習もしなければ、追いつかない。

指揮の振りを真似したり、メロディーに合わせて飛び跳ねたりする子どもたち。曲は、アニメの主題歌。

秋の消防イベントでの毎年の光景だ。演奏のは

技術 + 愛情で
おいしさ倍増

ハンバーグ＆目玉焼き(1200円・サラダ、スープ、ライス付き)。スペゲッティナポリタン(950円・サラダ、スープ付き)は、ソースとケチャップのシンプルな味付けながら、驚きのまろやかさ。サラダのドレッシングも手作り。

●洋食厨房 舟亭●

所 米子市安倍43-1
☎ 0859-29-1284
営 モーニング=8時~10時
ランチ=11時30分~14時
ディナー=18時~21時
休 火曜日(祝日の場合は営業)
月曜・水曜のディナー
WB [hakuraitei-yonago.jp](https://www.facebook.com/tenten.mangoos/)
FB <https://www.facebook.com/tenten.mangoos/>

ハンバーグ、スペゲッティ、オムライス…メニューを見るだけで、心がワクワク、お腹が減つてくる。住宅街に程近いこの店には、そんなメニューが約50種類ズラリ。「毎日食べに行きたい洋食屋」として、常連客が後を絶たない。店長の谷田潤一さんは、「7年前に広島県からUターン」。化学調味料を使わず、手作りがモットー。手間はかかるけど、おいしいのが一番でしょ」と笑顔で語る。料理は独学だが、形式にとらわれない分、自由な発想ができるという。その例が、鳥取県発の氷温技術※の導入だ。鮮度を保つので、みずみずしさやまろやかさが格段にアップする。一番人気のハンバーグもそのひとつ。ふっくらとした挽き肉の食感と甘みのある肉汁、そして濃厚なデミグラスソースの旨みが口いっぱいに広がり、至極の味わいだ。「ライバルはずばり『お母さん』」と谷田さんは、家族を思い作る家庭の洋食は、お手本でもあり負けられない存在だ。「野菜をたくさん取つて欲しい」と、ランチは地物野菜を使った前菜ビュッフェが付く。煮物やおひたしなど、和食も取り混ぜていて、連日、大人気。たっぷりの愛情とプロの技術から生まれる一皿、老若男女をとりこにする洋食がある。

文/岩村利恵

写真/佐野明美



■■毎日食べたくなる王道洋食■■

●

※氷温技術=0℃以下でも凍らず食品が生き続ける温度域で、食品の貯蔵や加工を行い、熟成した旨みを最大限に引き出す。

井村さん(中央花の帽子着用)が館長を務める「妖精美術館」(福島県金山町)開館記念パーティーに駆けつけて祝福した水木さん(1993年9月)



「妖精」はヨーロッパの「妖怪」

キリスト教の伝来以前、ヨーロッパ全土には、ケルト(※1)の文化が広がっていた。今日、「妖精」と呼ばれるもの多くは、そのケルトの神々を源流としている。例えばイングランドで有名な小人の妖精・ピクシー。緑色の服を着て、赤い髪にとがった耳、やぶにらみの目をしており、旅人を道に迷わせたりするいたずら者だ(被害を避けるには、上着を裏返しに着るといい)。

水木さんは1990年2月、ケルト・ファンタジー文学研究家の井村君江さんとNHKラジオで対談した。井村さんによれば、キリスト教によって悪魔や墮天使として追放されたケルトの神々は、その後も人々の無意識の世界に生き続け、シェイクスピアの作品やビクトリア朝の画家の絵画などにより、個性豊かな「妖精」に生まれ変わったという。

その対談で井村さんのイギリス調査旅行の話を聞いた水木さんは、即座に同行を申し出で、翌3月にコーンウォール(イングランド南西部)、マン島、アイルランドなどを回った。水木さんは、コーンウォールの巨石遺跡などで、「妖精」の気配を実感したという。

「妖精も妖怪も根本的に同じ。彼らが人間に、自分たちの存在を気づかせようとして、信号を送っているんじゃないのか」。井村さんも「300以上の妖精がいるとするケルト文化は、「八百万神」(※2)を信じる日本人には受け入れやすい」と語っている。

※1 ケルト=古代ヨーロッパの中・西部に住み、ケルト語を使用した人々。

※2 八百万神=きわめて多くの神々。森羅万象に神の存在を認める古来日本の神観念。

▼参考文献:水木しげる著『日本の妖怪・世界の妖怪』(平凡社、2018年刊行)
水木しげる著『水木サンと妖怪たち』(筑摩書房、2016年刊行)

文・写真/足立倫行 イラスト/ミギワン

境港市出身の漫画家・
故水木しげるに
まつわるエッセー

花咲く Yokai談

水木しげると身近な妖怪たち

妖怪
ファイル
Vo.4

- 一、出現はさりげなく
- 二、ルルマは1日3軒
- 三、人間とまちがわれないこと

いると榮え、去ると没落
三座敷わらし

旧家の座敷に住みついている童子(わらし=子ども)の姿の妖怪が「座敷わらし」である。赤い顔をしているが、その家の主人でもなかなか姿を見ることができない。ただし「座敷わらし」が家にいる間は榮えるけれど、去つてしまうと没落する、とされる。

なぜ家の守護者が子どもの姿をしているかといえば、民俗学者・柳田國男によれば、古い時代には「(神が)童子によって神意を伝えたまうことが多い」からだという。すけたり皺になつたりしない若葉のような新しいもの(魂)を、人々は珍重したのだ。

同種の妖怪で家の蔵に住みついているのが「倉ぼっこ」。「倉ぼっこ」は子どもの姿ではなく、火防の神として祀られてきたが、柳田の本では、「座敷わらし」も火事の前触れができ、防火力があった、とのこと。水木しげるロード(境港市)には両方のブロンズ像がある。

なお、北関東の旧家出身の井村さんは、「祖母が座敷わらしを見た」と語っている。

▼参考文献:水木しげる著『妖怪画談』(岩波新書、1992年刊行)
柳田國男著『妖怪談義』(講談社学術文庫、1977年刊行)

足立倫行(あだち・のりゆき)
ノンフィクション作家。境港市生まれ。同郷の先輩である水木しげるさんに約2年間密着取材し、『妖怪と歩くドキュメントのイカ』(1994年新潮文庫)※を刊行。主書に『日本海のイカ』『北里大学病院24時』『血脈の日本古代史』など。
※今井書店より復刻版発売中

ミギワン
漫画家・イラストレーター。石川県生まれ、鳥取県育ち。
WEB=<http://migiwan.com/profile>
facebook=<https://www.facebook.com/migiwanroom/>

【問】
公益財団法人
ふるさと鳥取県定住機構
所 鳥取市扇町115-1
鳥取駅前第一生命ビル1階
0857-24-4740
WB <https://furusato.tori-info.co.jp/>

- ▼IJUターン就職に関する相談
0120-307-238
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)
- ▼移住に関する相談
0120-841-558
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)
○とつどり移住定住ポータルサイト
<https://furusato.tori-info.co.jp/iju>



[PROFILE]
藤原啓司さん
◎家族構成／妻、子ども2人
◎移住前の住まい／京都府京都市
◎移住時期／2017年4月
◎現在の仕事／若桜町地域おこし協力隊
みそ製造業、みそソムリエ



商品は米みそ、塩麹みそ、もろみみそのほか、冬季限定「酒粕みそ」も

加えて「味噌の50%は水分なので、水の良さが味に大きく影響する。ここではすぐ近くの水ノ山系の湧き水を仕込み水に使えるんですよ」と、条件の良さを強調する藤原さん。

「生産量には限界がありますが、あえて手間暇がかかる天然醸造にこだわり、本物の味噌の味を普及させたい」。若桜町を起点に、藤原さんの夢は広がるばかりだ。

湧き水と蔵に恵まれ、天然醸造の味噌造り実現



届けたい「本物の味」

住まいは、「仮屋通り」と呼ばれる宿場町の面影が残る通りに面した一角にある。間口は狭いが、奥行きのある町屋風の2階建住宅で、玄関から約20メートルの突き当たりに味噌を仕込んだ木桶が並ぶ「蔵」が潜んでいた。「味噌の長期熟成に必要不可欠な蔵付きの家」を町に紹介してもらえたことが、移住の決め手となつたという。

加えて「味噌の50%は水分なので、水の良さが味に大きく影響する。ここではすぐ近くの水ノ山系の湧き水を仕込み水に使えるんですよ」と、条件の良さを強調する藤原さん。

2018年9月には、自宅1階に念願の『藤原みそこうじ店』をオープン。鳥取県産大豆と若桜町産の特別栽培米、沖縄産海水塩を使い、木桶で1年以上ていねいに熟成させた味噌は、雑味もなく、塩角がとれたまろやかな味わいだ。小売りのほか、業務用として町内の学校給食への導入も始まった。子どもたちから「おいしい」との声が届くようになり、大きな励みになっている。

「生産量には限界がありますが、あえて手間暇がかかる天然醸造にこだわり、本物の味噌の味を普及させたい」。若桜町を起点に、藤原さんの夢は広がるばかりだ。



「みそソムリエ」の資格保持者でもある藤原さん。「水ノ山自然ふれあい館響の森」で手仕事講座「味噌造り」の講師も務める

大学卒業後は、食の安全を追求した農業を志し、島根県の有機農業法人企業に就職。農作業のかたわら、自社製造の味噌造りを担当したこと、が、藤原さんの人生を方向付けた。「味噌、醤油、日本酒などの伝統調味料を作るのに欠かせない麹の魅力に取りつかれ、いつか自分の手で天然醸造の味噌を造りたいと願うようになりました」と、振り返る。

善は急げと、味噌造りの修業に門を叩いたのは、大学時代を過ごした京都で170年以上続く味噌店。最初は門前払いで、半ば押しかけ入社の形だったが、半年後には熱意が認められて正社員に採用された。7年半の修業中に生涯の伴侶も得て、天

然醸造の味噌造りでの起業は射程になりました」と、振り返る。

「独立を考えた時、味噌造りや将来の子育てに適した豊かな自然環境が、はずせない条件でした」と話す藤原さんは、2015年に大阪で開催された移住セミナーを機に、ここ若桜町の「地域おこし協力隊募集」と巡り合う。移住前には3度にわたり町を訪れ、夏冬の寒暖差や町の様子をチェック。家族の暮らしや起業に必要な情報収集や課題を地元の定住相談員を通して町内の学校給食への導入も始まった。子どもたちから「おいしい」との声が届くようになり、大きな励みになっている。



味噌を熟成させるために重しにする石は全て川から運んだという

老舗店で7年半修業

大学卒業後は、食の安全を追求した農業を志し、島根県の有機農業法人企業に就職。農作業のかたわら、自社製造の味噌造りを担当したこと、が、藤原さんの人生を方向付けた。「丁寧に熟成させた手作り味噌のおいしさを広めたい」と、長年温めた起業の夢を新天地で叶えた青年がいる。

2017年4月、地域おこし協力隊として若桜町に移住した藤原啓司さん(31)は、その情熱と行動力で、モノづくりに適した環境と暮らしを引き寄せた人だ。



■藤原みそこうじ店■
圏 八頭郡若桜町若桜799-2
0858-71-0485(不定休)
E-mail : m.a.o.y.u.g.n@gmail.com

店頭に掲げられた手作りの洒落た看板

みそ製造業、地域おこし協力隊(若桜町)○

藤原 啓司さん

岡山県倉敷市出身

文／島香子
写真／萱野雄一





字文 の迷宮をゆく

つれづれ書林女子

植物どもと俺の仁義なき日々

『ボタニカル・ライフ植物生活』 いとうせいこう著(紀伊國屋書店)

都会の片隅のベランダで、著者こと「俺」は粗末な鉢に水をやる。園芸の知識は浅い。せっかく芽吹いた球根を、サランかクロッカスか判別できぬ。見た目に詐かされて衝動買いし、そして多くを枯らす。

本書はお洒落なガーデニングエッセーではない。大雑把な「俺」と奔放な植物どもと

いう、同じ時代、同じコンクリートジャングルに生まれ合わせた因果な両者による血で血を洗う仁義なき対話の記録である。

もつとも、振り回されるのはいつも「俺」だ。地球の回転に従い蕭々と生死を繰り返す植物の営みを見つけられ、撒く。窮屈にも見えるこの植物生活を、しかし彼は気に入っている。「長年都会に生きてると、くだらねえことに感動出来るからな」。深くうなずく私もまた、愚かな人間なのだ。

文・イラスト／前田環奈
【郷野堂】
鳥取市吉方町2丁目311
080-2940-2127



女性に嬉しい成分で人気博す

大山の麓、日吉津村に拠点を構える株式会社伯耆のきのこ。

大山の伏流水を使い、完全無農薬で

キノコの菌床栽培に取り組む。

アイデア商品作りにも力を入れていて、健康や美容に

関心が高い女性を中心に注目を集めつつある。

2014年7月、キノコの菌床栽培を行った同社を立ち上げた。数年後、菌床を作る県外業者からの仕入れが足りなくなっこことで18年4月、菌床から作る製造工場を新たに設立。「ないならば、自分たちで作ろうと。菌床製造ができる事は自社の強みとなる」と、総務課長の白井知弘さんは説明する。

チャレンジが成功し、キノコの種類を増やすことが可能になった。現在は主力商品のキクラゲやシイタケ

保湿性が評判の「森くらげ」シリーズ(写真上)と新感覚スイーツ「森のサプリメント」



のほか、ヒラタケの栽培にも着手。今後も多品種、少量生産で種類を増やしていく予定だ。工場新設に伴ってビニールハウスも増設、生産量もアップした。18年度は、シイタケとキクラゲを合わせ、これまでより40トンの増産を見込んでいる。

一方、珍しい関連商品も開発。キクラゲを使用した全国初の化粧品だ。きっかけは、キクラゲの水洗い作業後に「なんだか手がしつとりつるつるになる」との女性社員のひと言。その声に敏感に反応した社長の三鷹さんはその後、成分を調べ、化粧品会社の協力やクラウドファン

ディングを利用して、化粧水を完成させた。好評を得てさらに石鹼・クレンジング・クリームを追加、4点セット「森くらげ」として売り出し中だ。保湿性に優れており、特に乾燥肌にお勧めだという。

続いて、キクラゲをデザート仕立てにした「森のサプリメント」を開発。味は黒蜜・フルーツの2種類あり、ヨーグルトに添えたり、レモネード風ドリンクにしたりして楽しめます。新感覚のスイーツとして人気を博しそうだ。

白井さんは「主力のキクラゲはぜひ生で味わって。歯ごたえが格別です。女性に反応が良いので、さらに口コミなどで拡散してもらい、知名度を上げたい」と、意気込んでいます。

文／小谷佑一 写真／佐野明美



「地産地消で地域に愛されることを大事にしたい」と三鷹さん

株式会社 伯耆のきのこ

代表／三鷹 真樹
設立／2014年7月
資本金／300万円
所在地／西伯郡日吉津村富吉114
電話番号／0859-30-4157
ウェブサイト／<http://houkinokinoko.tottori.jp/>

voice

■ 120号の感想から ■

- (愛知県あま市 加藤喜美子)
今号は読み応えのある特集がかかったです。特に海女漁を復活させようと頑張っているおふたりの姿に感銘を受けました。私は旧青谷町出身。夏泊では今でも海女漁が盛んなのだと思っていました。400年の歴史が再び蘇ることを楽しみにしています。
- (兵庫県神戸市 房安和則)
いつも楽しく拝読しています! 卷頭特集を読んで、ヤギの乳製品、エゴマなどのことを知ることがで工ゴマなどでの発信の継続を期待しています。
- (鳥取県鳥取市 山本初美)
最近はネット上での発信ばかりが注目されがちですが、今後も地道な紙媒体での発信の継続を期待しています。
- (静岡県浜松市 草野章次)
乗車した際、「とつとりNOW」を初めて手にしました。記事は非常に面白く、特に卷頭特集が興味深かったです。毎日、アマニ油を飲んでいるのでエゴマ油も試してみました。
- (兵庫県姫路市 荒木務)
『とつとりNOW』を初めて拝読。内容が多岐にわたり、とても読みごたえがある冊子ですね。ヤギ農場を起ち上げられた大下さんのご苦労、ご努力が素晴らしい。またヤギたちの愛らしい写真に癒やされました。
- (静岡県藤枝市 木ノ内紀子)
今回は県中部の情報が満載で、嬉しかったです。楽しく最後まで一気に進みました。特にストック栽培の杉川さんは、先日、TVに出演されたこともあり、会ったこともないのに妙に親近感を覚えました。そして鳥取の農産物は素晴らしいと再認識。また企業紹介でよく知っている「コマツシユーズ」さんが、新たな事業(シュブリ)を起こしておられたことも知りました。

読者プレゼント

応募〆切
2019.
3/31
消印有効

■応募方法

下記の項目を記入し、ハガキまたは電子メールでご応募ください。

- ① 希望の商品記号または商品名
- ② 掲載記事への意見・感想
- ③ 応募用クイズの答え
- ④ 住所・氏名・年齢・電話番号

※②の感想が次号の「VOICE」に掲載される場合、住所・氏名が明記されるところをご了承ください。また商品の当選文は、発送をもって発表に代えさせていただきます。

■応募先

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)
「とっとりNOW読者プレゼント」係
メールアドレス: now@kouhoren.jp
※お預かりした個人情報は、プレゼント発送以外の目的に使用することはございません。

●応募用クイズ●

Q 大阪淀屋の2代目以降が、主として名乗った共通の名前を何という? 空欄の3文字に漢字でご記入ください。

淀屋

120号のクイズの答えは
「鑲絵」 ※「きらり匠人」の
記事中に正解あり。

C



米みそ(500g)

手作りの麹と県産大豆を水ノ山系天然水で仕込んだ無添加の味噌(30頁参照)。天然醸造にこだわり、濃厚な味わいながら口当たりはまろやか。

問 藤原みそこうじ店
☎ 0858-71-0485

【5名】

A



「森のサプリメント」セット 【5名】

鉄分や食物繊維を含む県産キクラゲをデザート仕立てにした健康志向のスイーツ(32頁参照)。味はフルーツと黒蜜の2種類。新感覚の食感が特徴。

問 伯耆のきのこ
☎ 0859-30-4157

D



鳥取砂丘砂時計

鳥取砂丘の砂(※)を使用した3分間砂時計。インテリアとしても洒落ており、落ちる砂を眺めていると時を忘れそう。※採取禁止区域外

問 鳥取市ふるさと物産館(まちバル鳥取1F)
☎ 0857-36-3767

F



【3名】

大風呂敷サンドクッキー(5個入り)

深煎りきな粉と梨みつ、味噌を使用した生地に、きな粉クリームをはさんだ和風味のクッキー。程よい甘さとザクザクとした食感がクセになる。

問 宝製菓株式会社
☎ 0858-49-5555

G



えびの干し塩

湖山池(鳥取市)産のヌカエビを海水塩と混ぜ合わせて熟成、乾燥させて作った調味塩。凝縮したエビの旨みと香りが特徴。ひと振りで料理の味を引き立てる。

問 つづお食品
☎ 0857-53-0779

H



【5名】
ちょい悪コックさんの舶来カレー(200g)

洋食店で好評のメニュー「氷温熟成カレー」をレトルトパウチにした逸品(29頁参照)。鳥取和牛が贅沢に入り、毎回完売する人気商品だ。

問 洋食厨房 舶来亭
☎ 0859-29-1284

E



【3名】
げんき梅セット

湯梨浜町特産の大玉の梅「野花梅」を使った菓子の詰め合わせ。梅エキス入りのパウンドケーキとクッキー、梅が丸ごと入ったゼリーのセット。

問 湯梨浜町商工会
☎ 0858-32-0854

I



【3名】
雲竜ランプシェードキット
(高さ22cm×直径8.5cm)

雲竜紙をLEDライトに被せるだけで完成する、ランプシェードのキット。繊維の多い和紙を通した光は柔らかく温かみがあり、心が和む。

問 鳥取市あおや和紙工房
☎ 0857-86-6060

Editor's note

□ ■編集後記 ■□

淀屋(4頁参照のこと)初めて知った方も多いのでは?なぜなら武士系、文化人系に比較し、商人のことは、教科書で触れる量が圧倒的に少ない。この優れた功績を紹介しない国の方針に改めて首をかしげた次第。▼さて、

100兆円とも言われる淀屋の絶頂期の資産。日本の2019年度一般会計予算が初めて100兆円を超えた事と比較すると、その途方もない額に改めておののく。さらに驚くのは初代・常安の商いのスタンスだ。常に「得る」よりもまず「与える」が方針で、最初に大きなリスクを背負ったらしい。利益より「地域への貢献」を優先した

結果、ハイリターンを得たのだ。▼そういえば!と思ひ出す。何かの恋愛系コラムだった。「欲しがる=奪うこと。欲しいなら、まずは与えよ」的な一文。そう、商いも恋愛も根底は同じ。『愛を与える』がキーワードなのか~!▼要するにお金持ちへの近道はないということね。ん~深い、実に深い…。先人の教えは、時を超えて、尊い。【Hi】

とっとり
NOW

Spring

《企画・編集・発行》鳥取県広報連絡協議会
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220(鳥取県庁内)

《制作》株式会社セイセイ堂デザイン
〒680-0841 鳥取市吉方温泉3-802 TEL.0857-22-1122

0857-26-7086

0857-29-6621

とっとりNOW

検索

<https://www.kouhoren.jp/>
2019年3月1日発行 定価309円